



CELICA (1970-2006)

国産初のスベチャリティーカー。セリカとは、スペイン語で「天空の」を意味する。1970年の初代モデルはスタイリッシュで斬新な外観に加え、最上級モデル1600GTを除いては、特定のグレードを持たず、エンジン、トランスミッション、内外装をユーザーの好みによって組み合わせる「フルチョイス・システム」の導入で話題を呼んだ。「流面形、発見さる」のキャッチコピーで86年に異変と登場した4代目では、FRからFFへの大変革を遂げる。その1年後には、トヨタ初のベベルギア式フルタイム4WDと、排気量2,000ccの3S-GTEU型DOHCターボを積んだGT-FOURが満を持して登場し、WRC(世界ラリー選手権)にはこのモデルから本格参戦した。そして93年、GT-FOURをベースに開発されたワークスマシンが、WRC参戦以来トヨタ初のコンストラクターズ(メイクス)とドライバーズの2冠達成へと導いた。

SUPRA (1978-2002)

4気筒車セリカの上級車種として6気筒エンジンを搭載したセリカXX(ダブルエックス)をルーツに持つ。日本国内向けは2代目までセリカXXの名前で販売されていた。3.0リッター直列6気筒DOHCインタークーラーターボを搭載し、強烈な加速を実現した1986年誕生の3代目からは、北米仕様と同じ名前である「スーブラ」を名乗るようになる。続いて93年に登場した4代目では、「THE SPORTS OF TOYOTA」をキャッチコピーに、トヨタ車として初めて「リアルスポーツ」を標榜。本格的なスーパースポーツを目指した。



TOYOTA SPORTS 800 (1965-1969)

「スポーツカーをみんなのものに。」をコンセプトに、1965年に発売されたトヨタ初のライトウェイトスポーツカー。愛好者からは「ヨタハチ」の通称で呼ばれる。86の登場まで世界で唯一の水平対向エンジン搭載のFRスポーツで、小型飛行機を想起させる丸みを帯びたボディが特徴的だった。大衆乗用車であるパブリカをベースにしなが、当時のスポーツカーにありがちだった馬力だけで強引に引っ張るといふ考え方ではなく、徹底した空気抵抗の低減と軽量化で軽快な走りを実現。さらに、群を抜く燃費の良さを活かして、耐久レースでの活躍が目覚しかった。

ALTEZZA (1998-2005)

日本にはしばらく途絶えていた本格的FRスポーツセダン(4ドア)として誕生。プラットフォームは、プログレブ/ブレビスと共有した。車名はイタリア語で「高貴」を意味する。エンジンは、2.0リッターで1G-FE型直列6気筒と3S-GE型直列4気筒を搭載。デビュー時に各方面で大きな話題を巻き起こし、98年の日本カー・オブ・ザ・イヤーを獲得している。2005年、レグサSへ移行のため、アルテZZAは一代でその歴史の幕を閉じた。

TOYOTA 86

TOYOTA SPORTS



MR-S (1999-2007)

MR2の後継車として登場したオーブンタイプ
(手動ソフトトップ)のライトウエイトスポーツ
カー。2シーターのオーブンボディ、ミッドシッ
プというレイアウトはMR2を踏襲しながら
も、多くのドライバーに手軽にミッドシフツの
ハンドリングを楽しむでもらうことをコンセ
プトに開発。とりわけ軽量化に注力し、その車両
重量はわずか970kgだった。2007年に生産
終了。これによりトヨタのライトナフツからいわ
ゆるスポーツカーが消えることとなった。



MR2 (1984-1999)

日本初の量産国産車ミッドシフツカー。名前の由来は、
ミッドシフツ・ラナバウト・2シーターの頭文字を取っ
て命名された。デビュー時のキャッチコピーは、「背中
に二人を熱くさせるハートがある」。走りの楽しさにこ
だわる若者をターゲットとして開発され、84年の日本
カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した。初代のエンジンは
カロラから譲り受けた1.5Lの3A-LU型4気筒
SOHCと1.6Lの4A-GELU型DOHC16バルブを搭載
したが、1989年にモデルチェンジした2代目はセリカ
と同じ直列4気筒の2.0Lターボチャージャーを追加
した3S-GTE型と、そのノンターボ版となるスポーツ
ツインカムのみ3S-GE型が搭載された。

COROLLA LEVIN /
SPRINTER TRUENO (1972-2000)
カロラ&スプリングターベニスにした1,600ccクワース
のFRスポーツ。なかでも1983年発表の軽量コンパクト
な4A-GEエンジン搭載したスपोर्टイグニードは、
AE86の車両型式番号から「ハチロク」の愛称と呼ばれ、
コンパクトスポーツのFF化という潮流のなか、操る楽し
さを第一に考えるFRプラットフォームを中心に高い支持を獲得。
チューニングやカスタマイズをしやすい車両であったため、
ユーザーやショップの手によって、名車へと育て上げられ
ていった。1995年漫画「頭文字D」の連載スタートに
よりフェアアは加熱。主人公、藤原拓海の愛車、白黒ツートン
の「バンタレノ」が一番人気になるなど、社会現象を巻き
起こし、今なお高い人気を誇っている。



TOYOTA 2000GT
(1967-1970)

トヨタ自動車とヤマハ発動機が共同開発し
た、国産初の本格的スポーツカー。トヨタ初
のツインカムエンジン「3M型」を搭載し、
最高出力150PS、最高速度220km/h
以上を達成するなど、世界の高級スポーツ
カーと比肩する一台であった。またその
美しく官能的なプロポーションは人々を魅
了し、007シリーズ「007は二度死ぬ」の
主役ジェームズ・ボンドの愛車ポンドカー
として登場。世界的な名車としても名高い。



SOARER (1981-2005)

トヨタが初めて手掛けた3ナンバー高級スベシヤリタリカー。車名
は「最上級ライオン」を意味する。「未体験ゾーン」をキャッチ
コピーに、直列6気筒DOHC、2.8リッターエンジン、多彩な
エレトロニクス装備群など、当時の最新技術が惜しみなく投入
された。2001年、4代目に生まれ変わったソアラは、電動メタ
ルトップコンバーチブルへと進化を遂げたが、2005年レノサスC
の国内販売開始に伴って、その歴史を終えた。



86 (2012-)

このクルマの歴史を紡ぐのは、
ドライバーである貴方に他ならない。



トヨタスポーツの魂は、燃え続ける。

SPORTS HERITAGE